

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者が、自分らしく穏やかに過ごして頂けるよう支援しています。 ・個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で実践して頂いています。 ・チームワークを大切に、お互い助け合ってケアに取り組み、ご利用者、ご家族が安心して頂けるよう質の高いケアを提供しています。 ・スタッフが笑顔で優しく接するよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所では、利用者からも家族からも安心してもらえるようなケアの実現を目指しています。一つは職員同士がお互い助け合って、ケアに取り組めるようチームワークづくりに取り組んでいることです。法人からの指導だけでなく、職員同士で話し合い、人間関係や業務の改善に取り組んでいます。またもう一つは、利用者に向き合う姿勢です。笑顔や誠実な態度はもちろんの事、職員からは「いつも自分がこういうことをされたらと、利用者の立場になって考え、行動をするようにしています」との声が聞かれました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切にし、その人らしく暮らし続ける事を支える為に、職員全体で話し合い理念を作成し朝の申し送り時に、唱和し実践につなげている。	基本理念は、 ●笑顔ある暮らしを見守り、豊かな日常生活が送れるように支援します ●利用者の思いを尊重し、共に楽しみ・共に分かち合い、心穏やかに生活できるように支援します ●統一したケアで、安全で安心して過ごせるように支援します ●家族や地域との結びつきを大切にし、その人らしく生活できるように支援します の4項目から成り、毎朝の申し送り時に唱和を行うことで、共有・実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の入居者との散歩時には、近所の方との挨拶や会話を楽しんでいます。地域サロンにも可能な限り参加し、地域の催し物にも積極的に参加しています。	事業所は町内会に入会しており、地域の方々との交流を大切にしている。婦人会や老人会が主催する地域サロンへの参加、また健康ウォーク等、地域の催し物にも積極的に参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方々による慰問の受け入れを行う事で、お互いの情報を交換・共有している。又、当ホームの見学希望がある際には、丁寧に分かりやすい説明を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、入居者の状況報告、日々の活動内容など報告し皆様からのアドバイスを記録に残し、職員に回覧、職員会議の時に周知し、サービスの質の向上に活かしています。	運営推進会議は、奇数月に行われている。外部からの参加者として、区長2名、民生委員、地域包括支援センター職員、社協職員、町役場の担当者、利用者の家族となっている。会議の内容としては、利用者の状況報告や事業所の取り組み等について報告し、意見やアドバイスをもらっている。出席者からは、慣れが一番危ない等の指摘も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に、事業所を運営するにあたって日頃感じている事、疑問点などあれば、その時に意見し、助言を頂きながら連携を図っています。それ以外にも、質問、相談、報告等あれば、その都度連絡を取っています。	運営推進会議には、町の担当者も出席しており、利用者の状況や事業所の取り組み等について、説明を行っている。その際、疑問点や判断に迷う点などあれば、相談し、指導や助言を受けている。その他にも、必要に応じて連絡を取れるよう、協力関係を築いている。	

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング、カンファレンス等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、パンフレットを設置して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、入居者様がストレスを抱えないように、なるべく外出できる支援に努めています。	毎月第3木曜日に行われている全体ミーティングやカンファレンスでは、具体的な行為や拘束による弊害についても話し合っており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、利用者がストレスをためないよう、日用品や誕生日プレゼント等の買い物に出掛けたり、近くを散歩したりして、気分転換に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティング、勉強会で虐待防止の徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。また、スタッフがストレスを溜め込まないように相談できる環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い制度について学び理解しているが、繰り返し学び活用できるように支援体制を整えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、ご本人、ご家族様へ事業所見学を促し、十分な説明を行いながら、不安、疑問等ないか尋ね、再度説明し納得された上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望については気軽に相談して頂けるような雰囲気作りに配慮している。面会時の会話の中から要望を汲み取り会議等で検討し改善を図っている。また、中央交流スペースに意見箱を設置し苦情相談窓口のポスターの掲示をし、第三者評価の重要性を呼び掛けている。	家族等の面会時には、職員が必ず対応し、状況報告とともに要望や意見について聞き取るようにしている。また、直接的でなくても、思い当たる点があれば、スタッフで話し合い、ケアに反映させるようにしている。忌憚のない意見の収集の為に、意見箱の設置や第三者苦情処理機関のポスターの掲示も行っている。	家族としては、思っているも本当の気持ちは発言しにくいと思います。常に謙虚に耳を傾け、ケアの質の向上に取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為の努力をしている。	毎月のミーティングの中で、意見や提案を聞く機会を設けている。また必要に応じて、個別対応も行っている。意見の言いやすい環境づくりにも力を入れている。これまで職員の提案で、交流スペースの模様替えを行い、徘徊利用者の対応にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、相談や面談する時間を設けている。また、残業・資格取得者等には手当を付ける等、労働条件の整備をする事で、やりがいある職場になるように配慮しています。		

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。グループホーム連絡会など周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会し集会や研修に参加し交流する事で情報交換や知識の研鑽を行い事業所のサービスの質の向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様・担当ケアマネ(相談員)と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂き、サービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせ軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。その人その人の生活リズムを大事にし、優先して支援していくように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、近況を報告し、関係を築いている。また、秋まつり等行事を開催するなど、ご本人様とご家族様、そして当ホームが一体となって入居者様を支えている事を感じられる環境作りに努めています。		

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域サロンへの参加や地域のイベント行事の参加支援もしております。また、知人の面会や家族の面会、家族との外出、外泊も自由にして頂いています。	現在、地域サロンに参加されている方が1名、地域の健康ウォークに参加予定の方が6名、その他、盆・正月を自宅で過ごされる方も6名程おられるようである。事業所では、これまでの関係継続支援に取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押してあげたりなど、様子を見ながら手を差し伸べる方もいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。	日々の係わりの中で、利用者とのコミュニケーションを大事にし、思いや意向の把握につなげている。また、利用者からの訴えを支援計画記録に記載し、職員みんなですべて事例検討会を行い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様からの情報でアセスメント、フェイスシートを作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。	本人がより良く暮らすための介護計画は、本人・家族と話し合いながら作成するよにしている。誤嚥防止や塩分摂取等、必要な場合には、かかりつけ医の指導も受け、作成している。また、その他必要に応じて、福祉用具関係者の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫及びプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しませております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ている。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。現在、約半数の利用者が、協力医をかかりつけ医としている。他のかかりつけ医の場合、医師の都合にはよるが、往診が可能ということである。また歯科については、毎週木曜日の午後に訪問診療が行われており、3名の方が受診している。その他、認知症の専門医を受診している方も居られるようである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行き様子を見ています。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所でできる事を説明し、話し合っ方針を共有している。	昨年度は1件の看取りの実績があります。重度化や終末期の取り組みについては、契約時に説明を行っている。ただ看取りについては、最初から積極的に説明を行うのは、家族に申し訳ないという気持ちがあるようで、重度化から看取りの必要性が生じた場合に、指針の説明が本格的に行われるようである。終末期に対する強化も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回の消防訓練を実施しており、内1回は夜間帯を想定し、消防署立会いの下訓練をしています。また、近隣の住民にも参加の呼び掛けを行い、地域連携に取り組んでいます。	災害時の避難訓練は、年に2回行われている。うち1回は夜間を想定し、1回は消防署の指導の下行われている。訓練の前には、職員会議を開き、シュミレーションを行った上で、訓練に臨んでいる。近隣の区長にも呼びかけを行ったことにより、参加協力を得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書を交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。	年に1回は勉強会を行っている。また必要に応じて、その都度行うようにしている。利用者の人格を尊重し、失礼のない言葉使いや誠実な態度でのサービスに心掛け、気持ちよく過ごしてもらうことを目標にしている。また、個人情報の取り扱いについては、契約時に説明し、同意書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全てに対し、入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけています。必要な際には、居室移動も考慮する等し、居心地良い環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。		

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいます。(月1回訪問理容も利用している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。	食事が楽しく食べられるよう、利用者の体調を見ながら食事の準備に参加してもらうようになっている。食材の下ごしらえや、味付けを教えてもらったりしている。献立は、利用者の好物や旬の食材を取り入れ、職員全員で作成している。また、2ヶ月に1回は、メニュー、味、盛り付け等について、食事の評価を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやオムツを確認したり、オムツ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、一人一人のパターンに合わせた支援を行っている。2時間から3時間を目安に、立ち上がろうとする、きよきよする等の行動の特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。夜間2名の方がおむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをしてもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。	利用者の体調を見ながら、夏は2日に1回、冬は3日に1回のペースで支援しているが、必要な場合には、その都度対応するようになっている。時間的には、午前と午後の2回に分けての支援となっている。転倒などが無いよう、安全には最大限注意を払っている。また、入浴が楽しくなるよう、柚子やしょうぶ、その他入浴剤も使用している。	

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、その地域での健康ウォークに参加しています。	利用者の体調や希望を聞いた上で、1日1回は敷地内の散歩を行うようにしている。また家族の協力で、墓参りやお盆・正月の外泊、さらに地域の協力を得ながらの健康ウォークや地域サロンへの参加など、外出の機会を作るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払うなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたり支援しています。		

グループホーム菊陽スマイル ～ ユニット2(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来ます。台所・食堂からは、生活を共にする方の会話が聞こえてきたり、食事の準備や片付けの際の音が聞こえたり、生活感を感じる事ができます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。	玄関ホールは、地域交流スペースとなっており、調度品等が配置され、利用者の気分転換の場にもなっているようである。また、利用者の方々が過ごされるリビングや廊下、水回り等の共有スペースも明るく清潔で、ゆったりスペースとなっています。居室の表札やトイレの目印も工夫しており、利用者の自立を支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトしたり、家族の写真を飾ったりして、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。また、必要だと判断した場合、ご家族の理解を得ながら、本人様の体の状態に合わせた居室環境作りにも努めています。	部屋づくりは、今まで使用してきた使い慣れたものや、好みのもので行ってもらうよう話している。基本的な設備としては、ベッド、エアコン、コルクボードとなっている。また、必要に応じて家族の理解を得ながら、福祉用具等を取り入れた部屋づくりにも取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置しており、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		